

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

九州大学

前期日程

科目

物 理

総 括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分 量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総 論〉

例年通り大問は3題であり、出題分野は「力学」「電磁気」「波動」であった。近年は計算が面倒な問題がよくあったが、本年も昨年同様、計算が面倒な問題は無かった。全体の問題の分量は九大物理としては平均的であった。

〈特記事項・トピックス〉

- ・ここ数年は波動、熱力学が交互に出題されていた。昨年は熱力学で、本年は波動であった。原子物理の出題はなかった。
- ・力のモーメントに関する問題が久々に出題された。
- ・グラフを選択する問題が2問。作図、グラフを描く問題が各大問で出題された。
- ・例年出題されていた論述は、昨年と本年は全くなかった。
- ・今年は〔1〕の力のモーメントの後半の問題に時間を要する。
- ・各大問の前半は易しく、後半に少し難しめの問題という構成になっている。ただし、〔2〕と〔3〕は実質2つのテーマが含まれている。

〈合格への学習対策〉

- ・各大問とも文章量が多いことがあるので、そのような問題の演習をしっかりとこなしておこう。
- ・計算力が得点に大きく影響するので、普段からすばやく、かつ正確な計算を意識しよう。
- ・描図問題が出題されることが多かったので、普段から問題演習の際に、作図をすることによって問題で与えられた条件を整理したり、物理量の関係をグラフ化するようにしよう。
- ・物理的思考力、考察力を問う問題は今後とも出題される可能性が高いので論理的な考察ができるようにしよう。また、論述の作文の練習もしておこう。
- ・教科書に掲載されている実験に関する記述も熟読し、目的、結果に対する考察もできるようにしておこう。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範 囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
〔1〕	記述	物理	力学 静止摩擦力 剛体 位置エネルギー	「カタンコトン」と呼ばれる玩具の鉛直面内の運動に関する問題である。問1は摩擦角、等加速度運動に関する基本問題である。問2は剛体に関する基本問題である。問われている内容は、典型的なもののばかりなので、確実に正答したい。問3(1)は状況把握が難しい。問4は状況が煩雑であり、丁寧に図を描けたかどうかのポイントとなる。	標準
〔2〕	記述 選択	物理	電磁気 電磁誘導 キルヒホッフの法則	前半は、時間的に変化する磁場による電磁誘導に関する問題である。九大ではよく出題されるテーマである。複雑な計算もなく、確実に正答したい。ただし、(3)の振動電流が流れるときはやや注意。 後半は、キルヒホッフの法則に関する問題である。(6)の計算がやや煩雑である。	標準
〔3〕	記述 選択	物理	波 光の干渉 屈折・全反射	問1、問2は光の干渉の典型的な問題(ロイドの鏡)である。問2は思考力を要する設問であった。 問3は屈折の法則、全反射に関する基本問題であった。確実に正答したい。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。